

# GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

JANUARY, 2017

創刊号

特集

極北の夜空に舞う「女神」との邂逅

オーロラを求めて



## CONTENTS

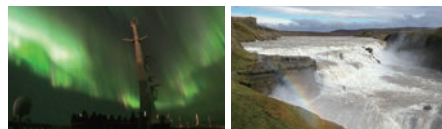
特集 ..... P3

極北の夜空に舞う「女神」との邂逅

### オーロラを求めて

想像を超える絶景に抱かれた島

アイスランド ..... P7



第95回／第99回ピースボート  
地球一周の船旅 ..... P8

白と青の世界 美しきエーゲ海の楽園

ギリシャ・サントリーニ島 .... P9



シンガポール出身 ピースボートスタッフ[アンジェリ直伝]

ローカルシンガポールの  
楽しみ方 ..... P11

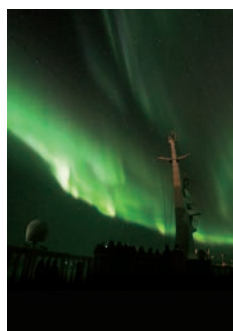


世界一周いろいろランキング vol.1 ..... P13

「お気に入りの世界遺産」編

表紙の写真

第92回ピースボート  
クルーズのオーシャン  
ドリーム号デッキから  
観測できたオーロラ。



*Ocean Dream*

オーシャンドリーム号

世界一周のクルーズ期間中、乗船者の“家”となる本格外航客船。



# AURORA

Miracle of the Northern Sky

特集 極北の夜空に舞う「女神」との邂逅

## オーロラを求めて

実は船旅とオーロラ観測の相性はいい。

海上にはオーロラを邪魔する光源がなく、さらに船にはオーロラを求めて雲のない海域へと自由に移動できる機動力があるからだ。

多くの人を魅了してやまない唯一無二の美しい光。

神出鬼没の「女神」を追った、世界でも稀有な追跡の記憶——

ICELAND  
アイスランド





## すべての人の心を揺さぶる、 幻想的な光のシンフォニー

北緯60度から70度。北極圏に手が届く、この地の夜空といえばオーロラだ。ローマ神話に登場する「暁の女神」の名を持つこの自然現象を観測するには、雲ひとつない夜空が欠かせない。

通常オーロラツアーというと、地上のポイントで忍耐強くオーロラの出現を待つ。しかし、天候の影響を受けやすく、雨雲ひとつで中止となることもしばしば。

その点、船旅はフットワークが軽い。あちらの空が晴れそうだと舵を切り、そちらにオーロラが出現したと聞けばまた舵を切る。積極的に「女神」オーロラとの出会いを求めることができるのだ。

今回、オーシャンドリーム号が観測域であるアイスランド周辺海域に到着したのは10月上旬。しかし、あいにくオーロラ観測に適した状況ではなかった。ハイ



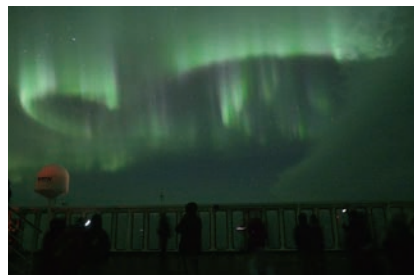
大規模なオーロラに遭遇。激しく揺れめきながらオーシャンドリーム号を包み込んだ。

チなど中南米で猛威を振るった未曾有の大型ハリケーン・マシューの影響で、海域全体が厚い雲に覆われていたのだ。

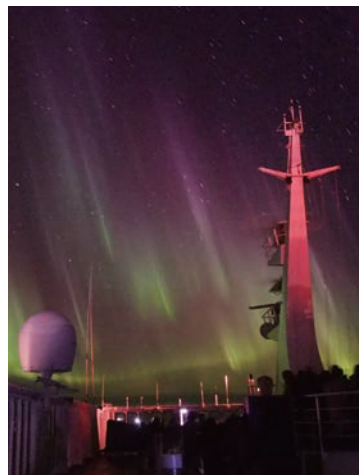
そんななかオーシャンドリーム号のところが航路は、数時間後に現れると予想された約200キロ先の東の間の晴天海域。本当に現れるか否かは神のみぞ知る観測可能海域だった。

緊張と期待の入り混じった数時間の後、予想通り前方に厚い雲の切れ間が現れる。しかも、その先にはほのかな緑光が確認できた。オーロラだ。近づくにつれオーロラの光は強くなっていく。高まる期待。そして、雲を抜けた瞬間のことだった。帯状だった光が大きく空二面に広がった。

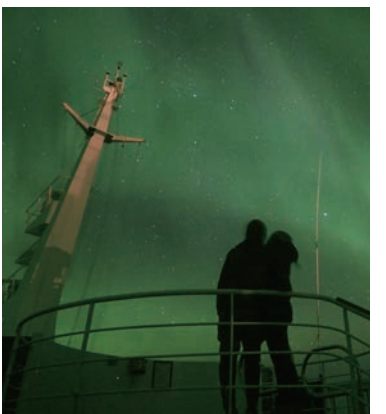
「みなさん、ただいま船をつつみ込むようにオーロラが出現しています」流れる船内アナウンス。人影でみるみる埋まるデッキから大きな歓声が上がった。夜空いっばいに繰り広げられる「女



いくつものオーロラが連なるようにデッキ上空を通過した。



今回のクルーズでは、稀少な「紫のオーロラ」も観測できた。



デッキには、霧散しつつあるオーロラの余韻に浸る様子も。

神」の神秘の舞い。上空数十キロから届けられた壮大な光のシンフォニー。この世のものとは思えない、地球最大規模の光のスペクタクルに涙を落とす人もいた。約15分間の上演のち、オーロラは崩れてやがて霧散したが、この「女神」との邂逅は人々の心に深く刻まれたに違いない。なにしろアイスランドで30年にわたってオーロラのガイドを務めてきた現地スタッフに、「船上から見るオーロラがこれほど素晴らしいとは思わなかった」と言わしめたほどの光景だったのだから。

### 第92回ピースボートクルーズ乗船

●写真家・水本俊也インタビュー

## Interview

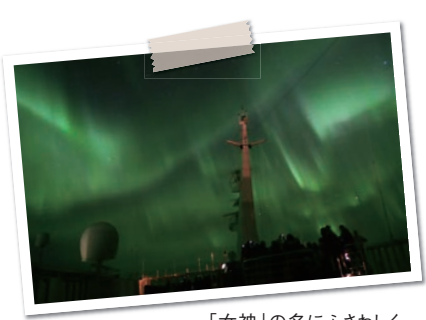
### 「思わずファインダーから目を離す そんなオーロラは初めてでした」

ピースボートが洋上で出会ったオーロラは、写真家の目にはどう映ったのか。過去にオーロラの撮影経験があり、今回クルーズカメラマンとして旅に同行した写真家・水本俊也さんに話を伺った。

オーロラを観測するクルーズは、そもそも数が少ないうえ、ほとんどが定期航路を持つクルーズです。船が積極的にオーロラを探して移動するクルーズは本当に珍しい。今回のクルーズにカメラマンとして参加できたことは非常に貴重な経験だったと思います。

このクルーズの良さのひとつは臨場感だと思えます。オーロラは空を移動すること多いのですが、その動きに合わせて船が進路を変える。このオーロラに向かって突き進んでいく感覚にはすごくワクワクしましたね。

船の先に雲の切れ目が見えた時、「ここを抜ければ必ずオーロラは見える」と半ば確信に近いものを感じていましたが、まさかあれほどのオーロラに出会え



「女神」の名にふさわしく、さまざまな表情を見せてくれたオーロラ。



水本俊也の  
オーロラ撮影講座

ここが  
ポイント!

- ①感度：3,200~6,400に設定。
- ②手ブレ対策：三脚を使用。(なければ  
落ち着いてシャッターを切ればOK!)

ここに  
注意!

- ①船の一部を使ってカメラを固定するのはNG! 船のエンジンの振動でかえって大きくブレてしまいます。
- ②自分の目でも見る!ファインダーを通して見るのとは違う感動を味わってください。

### Profile

写真家 水本俊也  
1972年生まれ 鳥取県出身  
日本写真家協会会員 (JPS)  
同国際交流委員会委員長 (2015~)  
オリンパス環境フォトコンテスト審査委員長  
キヤノンジュニアフォトグラファーズ講師  
横浜市在住

Shunya Mizumoto





# オーロラシーズンのアイスランドをゆく おすすめクルーズ



2017年夏のピースボートクルーズは、待望のミャンマー、ボルドーなど4つの初寄港をゆく新航路。躍動のアジアから船は、クレタ島、ドブロブニク、ロンドンなど人気寄港地を経てオーロラシーズンのアイスランドをめぐる。そしてニューヨークに入港。キューバ、コスメル、ハワイ……と旅のフィナーレまで注目の寄港地が続きます。全23寄港地。地球の息吹を感じる旅が船出します。

アイスランドはもちろん、ミャンマー、ボルドーに初寄港！



ピースボート地球一周の船旅



2017年8月13日～11月24日(横浜発着104日間)  
2017年8月14日～11月25日(神戸発着104日間)



2018年9月に出航するピースボートクルーズは、オーロラとマチュピチュという憧れの絶景2つを一度にめぐる見どころ満載の旅。アジアを皮切りに、人気のリゾートコルフ島をはじめ、アドリア海の真珠“ドブロブニク”やリパブルなどを経てオーロラシーズンのアイスランドへ。ニューヨークの寄港後はキューバ、ジャマイカ、ハワイと大満足の全24寄港地。ここにしかない世界を感じる旅があります。

アイスランドの後は、大注目のマチュピチュへ！



ピースボート地球一周の船旅



2018年9月1日～12月17日(横浜発着108日間)  
2018年9月2日～12月18日(神戸発着108日間)



## Gullfoss Waterfall

グトルフォスの滝

アイスランド語で「黄金の滝」の名を持つグトルフォスの滝。幅70m、落差30mとアイスランド随一の規模を誇る名瀑。豪快に水煙を上げながら、日の光を浴びて金色に輝く姿は必見だ。



## Blue Lagoon ブルーラゲーン

世界最大の露天風呂。その広さは約5,000㎡(競泳用50mプール約4個分)にもおよぶため、周囲を歩くだけでも十数分はかかる。ビールを買って入浴しながら飲めるのは嬉しいがほどほどに。肌がすべすべになる泥パックや石けんはお土産としても大人気だ。



## Hofdi House ホフディハウス

冷戦終結に向けて、レーガン大統領とゴルバチョフ書記長が会談を行った建物。現代史における記念碑的建造物。



## Thingvellir National Park シンクヴェトリル国立公園

ユネスコ世界文化遺産。世界最初の民主議会が開かれた場所。“地球の割れ目”ともいわれる、北米大陸とユーラシア大陸のプレートの裂け目「ギャオ」など見どころも多い。このギャオはプレートの移動の影響で、現在でも年間数cmほど広がっているという。



絶景に抱かれた島  
アイスランドを堪能する





典型的なギリシャ式家屋の中庭もサントリーニ島では見ることができる。



石畳が続く細い路地の両側には、所狭しと土産物屋が立ち並ぶ。

れてゆつくりと崖を登るロバタクシーは、サントリーニ島でしかできない経験。どちらを選ぶか迷うところだ。

フィラの街の一番の高台からはサントリーニ島が一望できる。そこから見える世界屈指の絶景はいつまでも眺めていたくなるほど。また、そんな絶景を望むレストランで、エーゲ海の風を感じながら街自慢のシーフードを楽しむのもいい。

フィラの街の次はイアの街。サントリーニ島でも特に白と青のコントラストが美しいとされる街だ。まるで絵本のような可愛らしい街並みは、ギリシャの強い日差しの中でも快適に過ごすために、この地に住む人びとが永い歴史の中で生み出したもの。白く塗られた壁は日差し

を反射し、屋内の気温上昇を防いでくれるという。そんな人びとの知恵に育まれた美しい街には迷路のような路地がたくさんある。思いのままに散策するだけで、思わず写真に収めたくなる景色に立て続けに出会うことができる。

まさに感動の連続ともいえるサントリーニ島でのステイだが、本当のクライマックスが訪れるのは夕暮れ時。オレンジ色に染め抜かれた街並みを従えて、エーゲ海に沈む夕日は思わず言葉を失ってしまうほどの美しさだ。

サントリーニ島にあふれる数々の絶景。深く心に刻まれた光景が忘れられず、何度も訪れてしまう理由がこの島には確かにある。

# 白と青の世界 美しきエーゲ海の楽園

ギリシャ・サントリーニ島



島北端にあるイアの街。「49 GOLD & SILVER STORE」という店から小道を抜けると現れるおすすめ撮影スポット。

# GREECE

## すべての旅人を魅了する、 絵本のような景色が広がる絶景島



教会の多いフィラの街。紺碧の海をバックに物言わぬ鐘が静かに佇む。



断崖に建つ色鮮やかな家々。中にはお洒落なホテルやカフェが入り交じる。

紺碧のエーゲ海に浮かぶヨーロッパ屈指の絶景リゾート、ギリシャ・サントリーニ島。年間を通して雨が少なく、いつも気持ちのいい透き通った青空が旅人を迎えてくれる。

この島には大型客船が停泊できる大きな港がない。そのためオーシャンドリーム号から「テンドーボート」という小型船に乗り換える。徐々に近づく断崖の上の白い街並みは、まるで雪山のような美しさだ。

上陸すると目の前は切り立った崖。最初の目的地「フィラ」の街はこの崖の上にある。辿り着く手段は、徒歩、ケーブルカー、そしてロバタクシーの3つ。ケーブルカーの窓からは三日月型の島に囲まれた湾に停泊する、オーシャンドリーム号や世界の客船、ボートがいくつも浮かぶ絶景が眺められる。一方で、ロバの背に揺ら

## 紺碧の海に浮かぶエーゲ海の島々へ



クレタ島

Crete

ギリシャ最大の島。牛頭人身の怪物ミノタウロスの神話で有名なこの島には、約3,700年前のクノッソス宮殿をはじめ多くの古代遺跡が点在する。クノッソス宮殿の巨大な地下迷宮は、「迷宮」を意味する英語「ラビリンス」の語源となったと言われている。第95回クルーズで寄港予定。



コルフ島

Corfu

ギリシャ北西部に位置し、国内でも屈指のリゾート地。ギリシャと西欧諸国の文化が入り混じった独特の街並みは散策するだけでも楽しい。ギリシア語で「緑の島」を意味する「ケルキラ」とも呼ばれ、絵葉書のような海岸線と豊かな自然も魅力。第99回クルーズで初寄港の予定。



## おすすめ楽しみ方 公園をうまく使うのが決め手！



高層ビルが立ち並ぶ先進都市のイメージが強いシンガポール。実は庭園都市として造られているため、市内のあちこちに公園があるんです。散歩の途中、公園でひと休みしたり、ランチボックスを持ち込んでピクニックしたりと、ゆったり楽しむのもおすすめです！



### 《ボタニックガーデン》

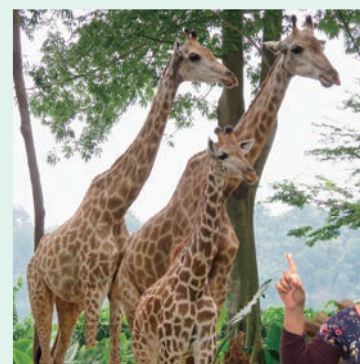
世界遺産

シンガポール初の世界遺産に認定された、随一の観光名所は市民にも人気。広さ52ヘクタールの広大な庭園植物園の中は色鮮やかな花や植物でいっぱい。ピクニックやジョギングなど思い思いの時間を過ごせる大都会のオアシスです。なんと入場無料※！※ナショナル・オーキッド・ガーデンのみ有料



私も週末には家族とピクニックやカードゲームをしています！

アンジェリより



### 《シンガポール動物園》

世界でも三本の指に入る動物園(アンジェリ談)。特徴はなんといっても檻や柵がないこと。遮るものがない状態で、動物たちの姿を見てほしい。



わたしの一番のお気に入りのはサルコーナーです！

アンジェリより



### 《アラブストリート》

いいレストランがたくさん見つかる地域。夕日に照らされるサルタン・モスクは一見の価値あり。スカーフなど安くてもいいものが手に入りやすいので、お土産の購入にも。



路地にどんどん入って探検するのも楽しい地域です。

アンジェリより



シンガポール出身  
ピースボートスタッフ

アンジェリ直伝

## ローカルシンガポールの楽しみ方

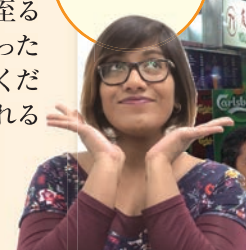
せっかく訪れた土地だから、地元の人に人気のスポットや食事を楽しみたい。そんな旅人の本能に応えるべく立ち上がったのは、生まれも育ちもシンガポールのピースボートスタッフ・アンジェリ。シンガポール市民ならではの視点から、おすすめフード&スポットをご紹介します。



## おすすめ食事処 ホーカーセンターに挑戦してみよう！

ホーカーセンターとは屋内型の屋台街のこと。作りたての食事が安く食べられる市民の台所として、大小問わず市内の至るところにあります。注文に迷ったら周りの人に聞いてみてください。「趣味は食事」といわれるシンガポール人のこと、きっとみんな喜んで教えてくれるはずです！

食べ過ぎ  
注意ですよ！



### 《ラクサ》

シンガポールの国民食ともいえるスープ麺。ココナッツミルクをベースとした甘みのあるスープに、スパイスの辛味が絶妙。シンガポールの東部と西部で味が異なるため、いろいろな店を巡るのもいい。



私の好みは市東部の「カトン風」ラクサ。スープが濃くてスパイシーなんです！

アンジェリより

### 《キャロットケーキ》

シンガポールでしか見られない(アンジェリ談)、大根餅を使ったオムレツにも似た卵料理。名称は方言で大根を「白い人参」と呼ぶことに由来する。朝食などでも広く食べられている人気メニュー。



人参(キャロット)でも、ケーキでもないシンガポール料理です！

アンジェリより

### 《プラナカン料理》

マレー人と結婚した中華系移民の子孫が生み出した、多文化国家シンガポールを象徴するマレー半島の伝統料理。絶妙で複雑な味わい。前菜からスープ、炒め物までさまざまなメニューを存分に楽しみたい。



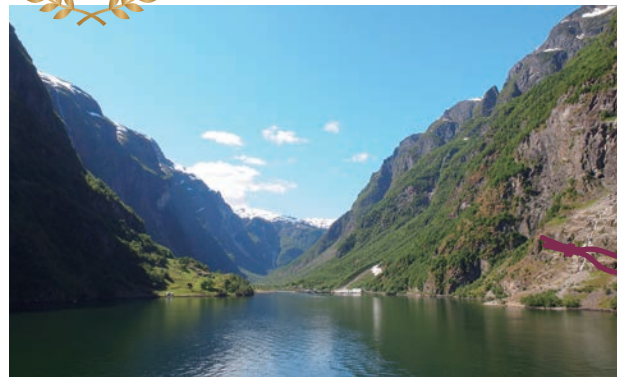
調理がとても難しい料理が多い、まさに「おいしい芸術」です！

アンジェリより





## ネーロイ(ソグネ)フィヨルド [自然遺産/ノルウェー] ……12票



自然が生み出した美しい渓谷・世界最大級のフィヨルド。特に幅わずか250mの航路の左右に1,000m級の山がそびえる迫力には息を呑む。



「地球の雄大さと神秘的な雰囲気が感じられる場所。列車、バス、船と、どこから見ても美しい絶景です」

●伊藤 香織



## ティカル国立公園 [複合遺産/グアテマラ] ……10票



マヤ文明の都市遺跡としては最大・最古の遺跡群。高さ51mを誇るピラミッド状の建築物「大ジャガーの神殿」が代表的。



「広大なジャングルにある神秘的な遺跡。マヤ文明のすばらしさも体感でき、神殿からの眺めは圧巻です」

●田村 美和子



## アントニ・ガウディの作品群 [文化遺産/スペイン] ……11票



バルセロナにある、サグラダファミリアやグエル公園をはじめとした、アントニ・ガウディによる建築作品群。曲線を多く用いたデザインが印象的。



「サグラダファミリアはこの世でもっともきれいな建造物だと思いました。内部のステンドグラスも最高です」

●服部 紗夕加



## ドブロブニク旧市街 [文化遺産/クロアチア] ……7票



クロアチア南端に位置する「アドリア海の真珠」とも称される港街。古くから地中海交易の拠点として栄えた。90年代の旧ユーゴ紛争から蘇った復興の街でもある。

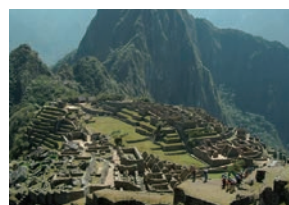


「紺碧の海と中世の街並みがつくりだすコントラストは絵に描いたような絶景です」

●竹谷 浩



## マチュピチュの歴史保護区 [複合遺産/ペルー] ……9票



インカ帝国の遺跡のひとつ。標高2,000mを超えるアンデス山脈の山の尾根にある遺跡は「空中都市」ともいわれ、いまだ多くの謎に包まれている。



「山間に築かれた謎多き空中都市はまさに圧巻。マチュピチュにたどり着くまでの道のりや景色も抜群です」

●向坂 英明



## ガラパゴス諸島 [自然遺産/エクアドル]



## ナミブ砂漠 [自然遺産/ナミビア]



## アンコール遺跡 [文化遺産/カンボジア]

※オプションツアーまたはオーバーランドツアーでの訪問地も含まれています。

「世界一周のプロフェッショナル」  
スタッフ120人に聞きました!

# 世界一周いろいろ ランキング vol.1

World Ranking



世界一周を何度も経験しているピースボートクルーズのスタッフ。目の肥えた彼らさえも虜にする絶品・絶景とは何か、実際のアンケートを元にランキング形式でご紹介します。第一弾のテーマは「お気に入りの世界遺産」。皆さんが行ってみたい世界遺産は入っていますか?

## 「お気に入りの世界遺産」編



## ラパ・ヌイ国立公園 [文化遺産/チリ] ……16票

別名「イースター島」。チリ本土から西に約3,700キロ離れた、太平洋上に浮かぶ国立公園。ラパ・ヌイは、現地の言葉で「大きい島」という意味。



「真っ青な海に囲まれた絶海の孤島。神秘的なモアイ像の数々と、あの海の色は忘れられません」

●正垣 直人



「観光面だけでなく環境や伝統文化継承などの問題も抱えていて、学ぶことがとても多い場所でした」

●大坪 麗



## イグアス国立公園 [自然遺産/ブラジル・アルゼンチン] ……15票



ブラジルとアルゼンチンの2カ国にまたがる、「イグアスの滝」を中心とした最大級の自然美を誇る自然遺産。亜熱帯の密林には多くの野生生物が生息している。



「期待と想像を何倍も超える迫力があり、地球のエネルギーを全身で感じられました」

●富岡 あゆみ



# 船上百景 [元旦]



なにひとつ遮るものがない水平線から上る初日の出は、まさに絶景のひとつ。

美しさと、楽しさと

それは船上だけのお正月

濃い夜空の東端がほのかなピンク色に染まると、やがて大きな太陽が、きらめく水面を従えて現れ、オレンジ色のまばゆい輝きを放つ。洋上で迎えるお正月は、そんな瞬きすらためらわれるほど美しい、初日の出のシーンから始まる。

そして、陽が上がりきった頃には、さまざまなイベントが船内のあちこちで催される。乗船者約1000人分のお餅を臼と杵でつく新春お餅つきをはじめ、盛大な鏡開き、お茶会や書き初め、小倉百人一首大会、さらにはかくし芸大会まで。大きな歓声や笑い声が至る所から聞こえてくる。

声の主には艶やかな晴れ着に身を包んだ人も多い。そんな光景にともすると、ここが日本から遠く離れた洋上だということを忘れそうになるが、南洋を渡るあたたかな風が、自分が立っている場所をやさしく思い出させてくれる。

洋上で新しい仲間たちと過ごすお正月。きつとかけがえない思い出となつて、人々の胸に永く残り続けることだろう。



つくりたてのお餅に、参加者全員で舌鼓を打つ新春お餅つき。



船内で開催された「小倉百人一首大会」。晴れ着に身を包んだ参加者も多い。



天に赤気(せつき)あり、その形は雉(きじ)の尾に似たり——

古くは日本書紀にも記された「赤気」とは、今から1000年以上前に京都や奈良の上空で見られた摩訶不思議な現象のことを指しました。実はその赤気こそが、今回の特集で取り上げたオーロラだったのです。古来より不吉な兆候として世界中の人びとから恐れられてきたオーロラも、現在では「二生に一度は見えてみたい絶景」の代表格となつているのがおもしろいですね。そんな天からの贈り物こそ創刊号に相応しいと思い今回の特集に選びました。

私たちが暮らすこの地球には、オーロラのような謎多き現象以外にも、悠久の歳月によって創られた大自然や先人たちの叡智が集結した世界遺産など、数多くの「傑作」が存在します。次号以降もそんな「まだ見ぬ素晴らしき世界」をご紹介しますため、今日もオーシャンドリーム号は七つの海をめぐっています。(I)